

令和 7 年 6 月定例会ティータイム

日時：令和 7 年 7 月 14 日（月）午後 2 時～

場所：議長執務室

1 今定例会を振り返って

○（議長）

それでは、今定例会を振り返って、主な出来事を紹介します。

(1) 戦後 80 年沖縄県議会平和祈念古酒甕造りについて

6 月 17 日の本会議終了後、戦後 80 年の節目に、沖縄県議会として未来に続く平和への願いを込め、あわせて泡盛のユネスコ無形文化遺産登録を記念する古酒甕造りを行いました。

その趣旨に賛同いただいた沖縄県酒造組合の御協力のもと、式典を開催し、大城副知事や沖縄県酒造組合佐久本会長、元県議の先輩方 14 名にも出席いただき、大変有意義なものとなりました。

(2) シビ・ジョージ駐日インド共和国大使の表敬について

7 月 1 日の本会議開始直前の短い時間でありましたが、ジョージ大使と懇談を行い、昨年の沖縄 DAY の感想や、双方の経済的・文化的な交流を活発化したい旨の話し合いをいたしました。

今回は大使とのお話を私だけではなく、広く議員にも伝えるため、沖縄県議会観光・スポーツ振興議員連盟会長の西銘啓史郎議員も同席し懇談を深めました。

また、就任挨拶で議会を訪れた J A 沖縄中央会会長をはじめとする皆様を大使へ紹介したこと、当初予定にはなかったのですが、表敬後に本会議一般質問前の議場の見学を大使へ提案したところ快諾されたため、大使を議場で紹介することができました。

沖縄とインドとのさらなる親善交流の契機になったものと感じております。

(3) 沖縄県知事からの審査申立てに係る総務大臣の裁定について

去る 2 月定例会での議決に対し、知事が行った総務大臣への審査申立てについて、6 月 26 日総務大臣より、「本件審査の申立てを棄却する。」を主文とする裁定書の謄本が送付されました。

この間、総務大臣により任命された3名の自治紛争処理委員による審理手続として、弁明書の提出や口頭意見陳述への出席を求められ、議長として対応したところです。

今般の裁定書の送付を受け、同日に全議員へ内容を知るとともに、7月4日に開催した各派代表者会において、出席した各会派代表者へ報告いたしました。

なお、今回の総務大臣の裁定では、付言として、「知事・議会の両者ともに予算修正の是非を審議する際の前提となる事項について十分な共通認識が得られないまま、予算の議決及び本件審査の申立てに至っている。」との認識の上で、今後は、地方公共団体の議会の予算審議において、議会が予算修正を行おうとするときは、長と議会の間で調整を行い、妥当な結論を見いだすことを踏まえて、沖縄県において、より充実した予算審議を行って妥当な結論を導くとともに、沖縄県民に対する説明責任を尽くすことを期待する。と述べております。

総務大臣からの付言を真摯に受け止めまして、県議会としては、今後、議案の修正を行おうとする場合には、議会の意思決定過程を明らかにするために、県民に開かれた本会議・委員会の場で、修正の内容やその必要性など、質疑・答弁を通じて議論を深めることについて、今一度全議員にその認識を強く持っていただくよう、議長として喚起したいと考えております。

紹介は、以上となります。

2 質疑応答

(記者)

平和祈念古酒甕造りですけど、終えてみて改めて感想やよかった点などを教えてください。

(議長)

きっかけは、ユネスコ無形文化遺産登録に選ばれたという事と、こういった甕造りも含めて、一部残っているところもあるけども、80年前の戦争で各酒造会社で作った古酒が残っていない。泡盛は沖縄の世界に誇れるお酒です。

平和だからこそ、こういった事業ができるという事を各派代表者会議で説明したら全会一致でやるべきだと。

戦後80年、世界でも、戦争をしない国づくりができたのも日本くらいじゃないかと思って提案したら、皆さんが喜んで協力してくれた。OBの先輩方、与野党来て

ましたが、本当に喜んでました。知事の代わりに副知事に出席していただき挨拶していただきました。

(記者)

総務大臣の裁定ですけど、今後、議長としてはどのような対応をしてほしいですか。

(議長)

冒頭でも少し説明しましたが、付言は双方に出されているのです。却下したと言うけれども、県民に開かれた本会議、委員会の場で修正の内容やその必要性など質疑答弁を通じて議論を深めることによって、知事、議会の双方が修正の是非を審議する際に十分な共通認識を持つことが可能だと考えております。

これは、終わった後からも一般県民からどういう意味ですかと、詳しく教えてくれという問い合わせもありました。

自民党は総務企画委員会でもいろいろな形で提案したけど、執行部が聞いてくれなかったりとか。各党派全会一致でもなく対立した案件でもありましたけれども。

予算修正の是非を審議する際に十分な共通認識が不足していたとは思いますが。今後はより充実した予算審議を行って、妥当な結論を導くために、議長としては、総務大臣の付言を真摯に受け止め、今後の議会運営に関して改めて襟を正して臨みたいと考えておりますし、そのことも含め、全議員が共通認識を持って取り組んでいきたいと思っております。

(記者)

執行部に対してはどういったことを。

(議長)

こういった提案は今回初めてですから、今後そういったことがないように事前に話し合いをして頂きたい。

例えば、去年か一昨年、執行部が畜産関係、第一次予算の関係を3億円組んだけれども、JAとか農家からは、27億円くらい補正してほしいと要望があって、前期の経済労働委員会が全会一致で採択をして執行部と調整して補正予算を組んだ経緯もある。

そういうのを見本に、緊急性がある場合においては与野党関係なく、議会の意思として執行部に要請していきたい。執行部はもちろんそれを聞き入れてくれたらいいんだけど、今回は限られた短期間の中で、最終本会議の結論になったと思っています。

そういうことがないように取り組んでいきます。ボールは執行部が持ってますからね。今後どうするかは執行部の判断になります。

(記者)

代表質問2日目の時に、議場がガラガラになっていて議長が苦言を呈したことがあったと思うんですけど、あの時はどういう思い、趣旨で発言されたのか。その後各会派から何かしらのリアクションがあれば、お聞かせ願いたいです。

(議長)

御承知のとおり、今回の6月定例は、参議院選挙を控えていることから、僕は自民党だけじゃなくて、各派代表者会の中でも議場を離れたら議会を開けませんよと、全議員に注意していました。

実は15年前の選挙の時に実際議会が開けなくて、休憩をいれて議員を集めて議会を開いたという事が僕の記憶ではありました。

そういった事があったので、僕は事前に自民党はもちろん、与野党のみなさんにも連絡しておりました。13時20分以降は議場に入ってください、でなければ議会は開けませんとまで言いました。

ですからああいった発言ができるんです。そして自民党の役員はもちろん、議員総会でも僕の方から注意をしておりました。みなさん映像見ても分かるとおりどちらかと言えば与党の方が少なかったと思う。マスコミの新聞報道、テレビ報道で県民からのお叱りがあったのは事実です。

ただ、あえて言ったのは、事前に注意しているにも関わらず守りきれなかったことに対する、議長としての再度の注意だったんです。

(記者)

何かその後各会派からのリアクションとかありましたか。

(議長)

ないと言えは嘘になるけど、それでもやるしかない。事実としてだから注意した
だろうということを言いました。

(記者)

事前にそういう周知があった上で、それでもああいう状況だったからということ
だったんですね。

(議長)

そうということ。そうでなければ、ああいう発言は出なかったのかなと。だから代
表質問2日目、一般質問のはじまる前だからね。一番大事な時期だったと思う。実
はあれは代表質問の2日目だったでしょう。初日も少なかったんです。定数はそろ
ってたけども、初日も少なかったものだから事前には話はしていました。

(記者)

事前に連絡していたというのは何かあったのですか。

(議長)

僕が議長になって必ず冒頭で、時間を過ぎたら打ち切りますと言っている。

過去には本会議始まって初日にしか言っていない。僕はあえて毎回言うと。それ
を認識させないと公正公平にかけるということで、僕は毎回、総時間がなくなつた
ら、質問の時間がなくなっていたとしても、総時間が残っていれば答弁できますと。
1秒でも残っていたら僕は答弁させます。

そういう場面は、僕の記憶によると3件くらいあったかな、そういった意味では
ルールを守らないとだめだと。これは正直言って一番苦情があったのは自民党から
で、議長厳しすぎると言われたけれども、それをやらないとルール作りができない
ということで、今やっているのが事実です。

(記者)

今回の事前に注意したのは、全員いらっしゃる場で。

(議長)

各派代表者会で話しました。

(記者)

各派代表者会で話されて、各議員に伝えてくださいという感じですか。

(議長)

そうです。自民党は議員総会でも話しています。

(記者)

以上です。

(議長)

ありがとうございました。